打瀬ベイバスターズ8強

2試合連続完封勝利

くりくり少年野球選手権

第36回くりくり少年野球選手権本大会が7月28日から31日まで4日間にわたり、埼玉県所沢市の西武球場で熱戦を繰り広げた。

大会には北海道から宮城、東京、愛知、九州など地区予選を勝ち上がった精鋭39チームが優勝を競った。本県代表の打瀬ベイバスターズは2回戦からの出場となり、ベスト8入りしたが準々決勝で敗退した。V争いはレッドローズ（東京大田）と武蔵野ヤングライオンズ（西多摩）の対戦となったがレッドローズが優勝した。

◇2回戦

青山B・B倶楽部（宮城）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打瀬ベイバスターズ	3	0	1	0	0	0	0	0	X 4

▽バッテリー＝佐藤、斉藤―大椿（青）、富岡祐樹、織茂雄哉、竹内海斗―木村勇樹（打）

ベイバスターズの3投手は青山ベースボールクラブにつけ入るスキを与えず、打者21人で散発2安打と凡打の山を築いて完封した。そのベイバスターズは1回裏、1番織茂がライト前ヒット。盗塁も決めると2番西響希がバントヒット。すかさず盗塁して2、3塁と早くも先制のチャンスに、3番木村のFC6、4番内田太陽の2塁ゴロで2人がホームイン。木村も5番小倉慶佑の遊ゴロの間に生還した。3回は2死後、4番内田、5番小倉、6番柴本隼汰の見事な3連続ヒットで追加点。

◇3回戦

打瀬ベイバスターズ	4	1	4	0	0	0	0	0	9
高砂マリーンズ（浦和）	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▽バッテリー＝富岡祐樹、織茂雄哉、木村勇輝―木村勇輝、柴本隼汰（打）、鵜瀬、黒須―川端（高）

▽3塁打＝小倉慶佑（打）

緒戦と同じ投手陣で臨んだベイバスターズ。この一戦もマリーンズを打者20人、散発2安打と投打で圧倒。連続2試合、見事な完封勝利をやってのけた。

ベイバスターズは1回表、1番織茂、3番富岡が四球で出塁。盗塁で2、3塁と積極果敢な攻をみせ、3番木村が先制2点タイムリーヒットを放った。さらに4番内田太陽のバントで木村をスコアポジションへ送り、5番小倉の2塁ゴロで追加点。なおもヒット、盗塁の柴本を7番本郷雄斗の打球がエラーを誘う間にホームに迎え、この回4点をあげた。2回は四球の1番織茂がノーヒットで追加点。3回は中越3塁打を放った5番小倉と、エラーで出塁した6番柴本、7番本郷、8番竹内海斗が相次ぎ生還し、4点を加えて完勝した。

◇準々決勝

打瀬ベイバスターズ	1	1	0	1	0	0	0	0	3
給田少年野球チーム（東京）	0	0	1	0	7	2X	0	0	10

▽バッテリー＝竹内海斗―木村勇樹（打）、溝口―田村（給）

▽本塁打＝田村、溝口（給）▽3塁打＝内、程原（給）

ベイバスターズは1回表、レフト前ヒット、2盗塁の1番織茂雄哉が4番内田太陽の遊ゴロで先制のホームイン。2回はセンター前ヒットの先頭7番本郷雄斗が後続内海斗、西響希のバントで3塁を踏み、1番織茂の打球がエラーとなって追加点。

対する給田は3回、四球の8番程原が8番森本のバントと、1番若井のヒットで生還して1点を返した。しかし、ベイスターズは4回、ヒットの8番竹内をバントとヒットなどでホームに返し、取られた1点をすぐさま取り戻した。この時点でベイバスターズはベスト4入りを確信してたのではなかったろうか。

ところが、終盤とんでもないドンデン返しが待ち受けていた。

給田は5回1死から9番森本のセンター越え3塁打を皮切りに4番田村がライトへ満塁ホームラン。

8番程原の2点センター越え3塁打など打者11人、長打3本、単打3本の猛攻で大量7点を奪って逆転すると5回裏、3番溝口が右中間へ2ランホーマーを放ち、得点を2ケタへ乗せてしまった。

西武球場で力強い入場行進を見せた打瀬ベイバスターズ

FAXコーナー
近所の話題やスポーツの予定をお知らせ下さい
☎043(206)9533